

漸進的に展開するアクティブ・ラーニングの意義と効果 —「政治・経済」の授業から—

公民科 北原 武

1. はじめに

本大会では、平成24年に登場して以来議論が重ねられているアクティブ・ラーニング（AL）について、その在り方と問題点を明らかにし、そのうえでその問題点を克服する手法としての漸進的に展開するALについて、「政治・経済」の授業実践を報告した。

2. 発表内容

①本校における「政治・経済」の位置づけ

本校は平成26年度にスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている。本校のSGHの特徴は、文系理系に特化せずに幅広い学習を重ねていくいわゆる教養教育を土台にしていることであるため、「政治・経済」を含め各科目がSGHとの連携を考えた授業を展開している。

②ALが抱える課題・授業実践報告

ALが抱える課題として3点に着目した。1つ目は、「どこで何を学ぶのか」という点である。つまりそれは、授業内で何を学び、授業外で何を学ぶのかという学びのコンテンツに関することである。2つ目は、「どう評価するのか」という点である。協働学習の過程や成果物をどう評価するのか、また自己評価や相互評価をどう評定に組み込むのかということである。3つ目は、「学習効果が一部の生徒に限定されないか」という点である。ALという手法での学びは学び直しが困難であるため、言語活動が得意な生徒と不得手な生徒における学習効果の差が大きくなってしまっているのではないかとのことである。そこで、全体としての学習効果を高める手法として、ALの漸進的展開という視点での授業を実践した。

③課題

学びのコンテンツの設定や、ALという手法を漸進的に展開するといった工夫は比較的容易にできるが、やはり評価、特に協働学習の過程や成果物をどう評価するのかという点が課題として残った。

3. 質疑応答

ICT等による教育環境の変化や、授業の在り方の変化が激しくなるであろう今後において、どのような授業を理想とするか、というやや本質的な質疑が出され、参加者間で意見交換を行った。